



東京部会 (第 55 回)

日 時: 2013 年 1 月 15 日 (火) 19:00—21 : 15

場 所: 日本大学経済学部本館中 2 階会議室

参加者: 篠原(同志社大)、野間(同志社大)、加藤(日大)、小巻(日大)、新井(小石川中等教育)、大倉(松戸向陽高)、杉田(千葉県立西高)、高橋(桜修館中等教育)、升野(筑波大学附属中学校)、宮崎(都立蒲田高)、鈴木(日本経済教育センター)、榊原(東証)、石山(東証)、中沖(清水書院)、神尾(第一学習社)、中村(中小機構)

【内容要旨】

1. 新井先生より、配布資料『東京部会レポート』に基づき、まず夏休み経済教室の詳細が説明された。まず、名古屋のプログラムが中学と高校を入れ替え8/1高校・8/2中学とし、高校は研究会事務局が変わること、実践交流を東京の高校で復活させることが報告された。その後、東証より紹介を受けた時事問題の講演候補者について討論した。実践家と専門家の交流では、大学教員の講義を聞いて現場の先生が教材を提案するという双方向のコミュニケーションが実施できるようなスタイルが望ましいとされ、現場からは新井、杉田、三枝先生を中心をお願いすることになった。小巻先生に中学・高校で内容を変えて「教科書を読み解く」の講演(名古屋高校、福岡高校、大阪中学、東京中学)を、野間先生に歴史(バブルとその崩壊)の講演(全ての会場における中学)を、篠原先生に歴史(世界恐慌)の講演(名古屋高校、福岡高校、東京高校)をお願いすることになった。
2. その後、2月16日の埼玉ワークショップと3月総会の確認がなされた。3月総会については中川先生から報告があり、2部構成(1部は労働問題が教科書でどのように扱われているかを中川先生が解説、2部は実践に生かすためのディスカッション)の方向で調整中とのことであった。
3. 新井先生より、「筑波大学における集中講義」の教材と解答が配布された。内容は大学入試やマイクロ演習書にもとづく設問(マイクロ30題、マクロ30題)の説明があり、学生の傾向が説明された。本年度は今後検討とのこと。
4. 高橋先生より、「高層マンション建設の問題を法と経済で考える」というタイトルの実践案が紹介された。国立市におけるマンション訴訟における住民側と開発業者の対立を事例にして、両者の幸福を考えさせるという提案であった。これに対し、参加者から改良に関する提案があった。
5. 野間先生より、大阪部会で紹介された河原和之先生「ネタ・ゲームを通じて見方考え方を培う経済の授業」の内容が報告された。

次回開催予定: 2月15日(金)19:00~21:00。場所は未定。議題は、3月の大会および夏の経済教室の内容の詰め、参加者からの活動報告、その他。